

一般社団法人 山形県介護支援専門員協会誌

ケアマネ通信 やまがた No.33

巻頭言

新しい協会活動の模索

～新型コロナウイルス感染予防との両立～

佐藤 裕邦

アメリカの文化人類学者であるエドワード・ホールは、対人距離を4つに分けそれぞれの意味を示している。その中の「社会距離」(social distance)は120～360cmで、仕事上の付き合いなど、形式的、儀礼的なやり取りをする場での対人距離である。新型コロナウイルス感染症予防では、咳やくしゃみのしぶきが飛ぶ200～300cm程度の距離を「社会的距離Social distance」と呼ぶ。私は「フィジカル・ディスタンス」を使った方が良いと思うが。

さて介護支援専門員は、この対人距離を保ち、他の2つの密(密閉・密集)を避けて業務を遂行することは可能だろうか。私の答えは、「新しいやり方、新しい手段・方法を見つけ、それを習慣化して、業務を遂行するしかない」である。問題もあるようだが、遠隔診療のやり方を参考にする必要はあるだろう。宇宙ステーションに居る人の健康管理を地球上でやっているのだから出来ない理由はない。withコロナでは、離れた状態(遠隔=リモート)で(生産)活動をしていかなければならない。

ではコロナ禍で協会運営は、どうだろうか。人が集合する事業を開催する時は、正しい知識に則り、感染対策をとり万全を期すが、それでも違った制約を受ける。その制約とは、会員が所属する会社・法人のコロナ対策の方針に基づく指示である。感染リスクをゼロにしたいから参加が認められないことはよくある。

このような状況で協会としては、研修等の事業は集合せず行う形を整える必要がある。現に理事会はリモートで開催されており、今後それが当たり前になるだろう。遠距離にいる者同士がネットで繋がることは、今は新しいやり方であるかもしれないが、年末年始の挨拶もリモートで行われたり、1年後は当たり前になり、日常になっていくだ

ろう。技術が進歩し、新しいやり方ができあがり、人が利用し始める、それは新たな文明になっていくこと。人の生活は過去の文明には戻りづらい。スマホを使う時代に居て、ポケベルしかない時代に戻りたいと希望する人は多くないはずだ。生活が便利になれば、わざわざ不便な生活に戻れることを望むことは稀である。インターネットは便利であることを実感し、そして日常生活に取り入れていくこと、私たちが利用者を支援する中でやってきたことに似ている気がする。

これまで当協会は公平・平等を運営の柱に据えてきた。具体的に言うと、一部の会員に不利があれば、それを採用しない判断をしてきた。このコロナ禍で言うと、「ネット環境が無いからWEBでのセミナーは受講出来ない」という声があれば、ネットを駆使することは控える判断をしてきたということだ。しかし、皆が集合できない条件にあって、ネットが出来ないから研修もしないでは協会の存在意義はない。会員自身がインターネット環境を整え、協会ではネットで企画する事業を増やす、そんなインターネットに強い団体になっていかないといけないと私は思う。

これまで以上にインターネットを活用する事が出来れば、ホームページでの情報発信などができるようになれば、即時の情報発信も可能になると同時に広報誌の発行も回数少なくなり、経費の削減も期待できる。

インターネットの活用によるメリットだけではなく、リスクへの対応も考えておく必要がある。協会としては個人情報漏洩など情報セキュリティをしっかりとやること、ネット使用の上での新しいルールや文化作りも必要になってくるだろう。

キールホフナーの『人間作業モデル』にもあるとおり、新しいことを取り入れ、習慣化していくことは個人でも集団でも大変である。このコロナ禍では、インターネットという遂行手段が最も有効だと強制的に納得させられているように感じるが、今ここで、インターネットを活用していくんだと協会も会員も腹をくくって進めていくことが大切だと感じている。

巻頭言 新しい協会活動の模索	1
～新型コロナウイルス感染予防との両立～ 佐藤 裕邦	
理事会報告	2
事務局員紹介	3
賛助会員の紹介	4

ケアマネ協会より応援メッセージの発信について	4
委員会報告	5
地区支部報告	7・8
編集後記	8

理事会報告

第48回 理事会 (令和2年11月)

日 時 令和2年11月7日(土) 16:00~17:30

開催形式 ZOOMミーティング

出席者 佐藤(裕) 高木(千) 佐藤(知) 鈴木(真) 星川(知) 番場 佐藤(郁) 星 丹野 阿部 村上
村山 椎名 佐藤(温) 伊藤(喜) 高橋(秀) 青木(和) 菅野 高瀬 星川(友) 柳谷 高橋(英)

1. 協議内容

(1) 各地区支部の報告について

① 山形地区支部

◆役員会開催: 令和2年10月21日(水)

内容: 議事: 本年度事業について

◆研修会(案): 令和3年1月

方法: 集合型オンデマンド視聴、定員制 60名

内容: 介護支援専門員の記録の書き方(講師: 八木亜紀子先生)(予定)

② 村山

◆令和2年2月26日(水)役員会

今年度の事業計画、事務局の変更等協議。

令和2年度は東根市社旗福祉協議会へ事務局移動。

5月24日総会、研修会の予定であったが、新型コロナ感染拡大予防に伴い書面開催、役員改選、研修会中止。

③ 最上

◆令和2年10月7日 支部役員会

◆ZOOM研修会(支部役員のみ)

令和2年12月14日 事例検討型研修会

令和3年2月: 支部研修会予定。

④ 置賜地区支部報告

◆10月16日(金)

令和2年度第1回置賜地区支部役員会

次年度における置賜役員改選について、今後の研修の在り方について ZOOM会議、研修の練習要など。

県からの依頼として、山形県災害派遣福祉チーム員養成基礎研修、介護支援専門員研修講師指導者養成研修・演習助言者養成研修へ参加者推薦する。

⑤ 庄内

11月27日(金)研修会予定。なの花ホール(wi-fi)環境あり。日総研、齊木大氏講師。

(2) 各委員会の報告

① 広報委員会

1月に会報を発行予定。編集案検討中。

② 総務委員会

運営規則の改定: 年会費の変更に伴い必要。

③ 財務委員会(令和2年度11月5日現在)

残高状況と今後の支出予定の報告あり。

④ 主任ケアマネ委員会

・Webによる調査実施計画中。

⑤ 講師・ファシリテーター養成研修委員会

講師指導者: 11月14日(土)1日: 参加者9名

ファシリテーター: 11月21日(土)午前: 10名

⑥ 専門職種連携委員会報告

◆10月3日zoomで役員会を開催

◆今後の動きとしては

Zoomで語ろう(zoomに慣れよう編)開催(案)

⑦ 会員サポート委員会

掲示板には、相談苦情等の書き込みはなし。研修については、コロナ禍で検討中。

(3) ZOOM: PW変更の報告。

(4) その他

・東北ブロック会議: 1月16日(土) OR 23日(土)

9:30~12:00 ZOOMにて

・山形県地域包括・在宅介護支援センター協議会

令和2年度参与団体との懇談会

令和2年12月2日(水) 13:30~15:30

・令和2年度佐藤病院認知症疾患医療センター連携協議会(書面開催: 理事にメール)

5. その他

次回理事会の開催

令和3年1月30日(土) 16:00~ ZOOMにて

◆事務局員紹介

副会長 佐藤 知生

本年4月から事務局職員として、火水金の週3日の午前中、新しい事務局職員の沼澤弘喜とともに働かせていただいております。昨年までは作業療法士として介護施設にて働いておりましたが、縁あって事務局に深くかかわることになりました。

協会の理事としては平成14年か15年あたりからご協力をさせて頂いておりました。その間様々な経験と勉強をさせて頂きました。その恩返しというか、たまたま仕事をやめることになり(というか「うつ病」を患い半年ほど休職をしていたのですが)、昨年度は週2回半日の事務局員の在中であり、なんとか毎日事務局員を確保したいという協会の意向があり、タイミングも合い、前職を退職して、お世話になっております。

初めての事務局の仕事は雑多な業務にあふれており、当初は大きなミスも犯し、会員の皆様から許しを請いながら業務にあたっておりました。現在は少しは慣れて来たかと思いますが、まだまだ会員の皆様にご迷惑をおかけすることも多いかもしれません。

協会の運営としては、新型コロナウイルスの感染拡大にともない、研修会や会議が前半動きが取れなかった状況にあります。このようなことは私の人生(皆様も同じか)のなかでも初めてのことであり、当初は戸惑いが多かったです。しかし、現在は協会でライセンスを取得した「ZOOM」を利用しての会議も理事会や各委員会、各地区支部でも使用しての会議をしていただくようになり、新たに研修会の企画も立てられるようになってきています。

課題も多く、事務局としての役割の大きさを感じていますが、会員と介護支援専門員としてかかわる地域の方々に貢献できるように業務に向かいたいと思いますので、今後とも、よろしくお願い申し上げます。

事務局長 沼澤 弘喜

平素は格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。また、日頃より当協会の運営に際し、ご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

この度、令和2年4月1日付をもちまして山形県介護支援専門員協会の事務局長を仰せつかりました沼澤弘喜です。微力ではございますが、介護支援専門員の皆さまと同じ立場として、日々の業務にお役に立てますよう誠心誠意努力して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

さて、連日、コロナウイルスの感染状況について報道がなされています。早く終息することを祈りながらの日々ですが、介護支援専門員は、どんな状況にあっても、ご利用者様、ご家族様、サービス事業所様、医療機関との迅速かつスムーズな連携を常に求められていることを身をもって痛感しております。連携が連帯となって、ご利用者様を支えていく力となり、少しの変化も気付くことのできる大きな役割がある素晴らしい職種だと感じながら業務にあたらせて頂いております。

今できる最善のこととして、当協会では、ZOOMを用いた研修やメールによる最新情報の配信などを企画し、準備中でございます。また、これまで同様、Q&Aにもお答えして参ります。

最後にケアマネの皆さま、どうか、ご自身の心と体も大切に、共々に支え合い、手を取り合い、この状況下を乗り越えて参りましょう。



委員会 報告

主任ケアマネ委員会

主任介護支援専門員を対象の中心にして、課題や地域づくりに関する調査を準備中です。本会としては初の(?)インターネット調査になる見込みです。

(主任ケアマネ委員会 佐藤)

会員サポート委員会

会員サポート委員会では会員と非会員との差別化を図るため、昨年度から会員専用掲示板に県の通し番号の記入をお願いしております。掲示板は不特定多数の方がご覧になられることも多い為通し番号の記入に抵抗のあるかと思いますが、会員の利益の為ご協力お願いいたします。委員会の方では通し番号が現在使われているかのみを照合しております。会員の秘密は保たれるため気軽に相談いただければと思います。会員の方からメール・FAXでの相談対応も随時行っております。こちらの方もご利用いただければ幸いです。個人情報 that 特定される場合などはメールなどでの相談をお願いいたします。

年を明けると介護報酬改定の全容が見え始めますので、各委員の方でもアンテナをはり、迅速に対応できるように体制づくりをしていきたいと思っております。

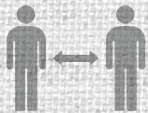
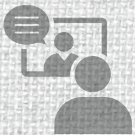
(会員サポート委員会 高橋)



講師・ファシリテーター養成研修委員会

山形県より業を受託し「山形県介護支援専門員講師指導者養成研修」「山形県介護支援専門員ファシリテーター(演習助言者)養成研修」を新型コロナウイルス感染予防対策を行い開催させていただきました。研修内容もオンライン研修の開催方法等が加えられるなど変化があったところです。県社協様、老施協様、各地区支部様より推薦をいただき、講師指導者養成研修8名、ファシリテーター養成研修9名の方から受講いただきました。受講者の皆様方には、今後、オンラインを活用した研修の開催など、今までとは違う形での開催となる可能性があります。各研修への協力をお願いいたします。また、来年度も同様の研修を開催させていただく予定となっております。推薦依頼があった際は会員の皆様からも是非、受講していただきますようお願いいたします。

(講師・ファシリテーター養成研修委員会 高橋)



専門職種連携委員会

ケアマネの支援部の一つとして創設され顔が見える関係づくりを構築すべく創設された委員会でしたが、このコロナ禍で停滞してしまいました。必要だったコミュニケーションが取れなくて孤独に戦っていたのではないかという推測のもと、オンラインコミュニケーションとして過日一回目の「zoomに慣れよう研修会」を開催いたしました。「zoom? わからない。できない。」という声も聞かれました。接続に時間がかかり経験のある方からすると笑い話になるのかもしれませんが…まずは申込者全員が繋がるまでのドキドキは肝を冷やすものでした。初めから諦めずの精神で参加して下さった方々は初心者が半分で途中zoom操作ミニレクチャーをはさみながら90分間もあっという間でした。顔が見える環境のリモートの心地よさを感じ概ね好評でしたので、その内容の一部をご紹介します。

withコロナ「どんなところ苦慮したのか」
実際にコロナ感染者家族となってしまった濃厚接触者の利用者への薬のお届けをしたケアマネ。調剤薬局でもある薬剤師にも通達が出たため郵送や訪問して薬のお届けしたケースが通常の4倍に至り必死だったこと。サービスがストップした事業者（デイサービスやヘルパー）に対する家族からの苦情等のやり取りで苦労した話。コロナ特例加算※（下記説明）に対する同意や説明責任のないサービス事業者とのやり取り。医療機関を控える動きもあって、本来病院に入院治療が必要な場合も家族の面会制限に耐えられないと入院拒否や退院する行動等では在宅での混乱は大変なことであったこと。家族や県外からの帰省親族への対応について、ケアマネのみビリピリと危機感を感じて過ごしていたこと等モニタリング訪問の苦労話をzoomで語ってもらいました。

afterコロナ「今後の方向性や今後の予定」
どう進めていくのかを検討しました。「コロナ以前の生活に戻れない今、新しい生活様式になれるしかない」スマートフォンを持っていない人がいない現実、mailやLineの利用は普通のこと。なかなか馴染まないインターネット利用会議やオンライン研修会も今後は普通のことになるまで「zoomに慣れよう編」がスタートしました。初心者大歓迎で今後も進めていきますのでインターネット利用が便利であることを実感し当たり前になるまでリモートに慣れていただけるようサポートしていくことになります。Zoomに慣れ経験を重ね、サテライト型やハイブリット型研修会（集合型研修とオンライン研修を同時に開催する研修形態）と拡大していくことになります。

今年度はオンラインでのコミュニケーションを意識して会員の成長を促す「zoomに慣れよう編」ははじめの一步！二か月に一度の開催とし輪を広げていく方向性ですので、不慣れな方もこの機会に是非とも参加してみましよう。Zoom接続等心配な方はメールで事務局までご連絡ください。

次回は令和3年2月6日開催予定（詳細はHP参照）趣旨をご理解の上、ご協力お願いします。
（専門職種連携委員会 佐藤）

地区支部報告

置賜地区 支部報告

置賜地区支部では、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、近年7月頃の開催となっていた総会を開催せずに書面決議を行いました。当地区支部規約に定めがない事項の為、メールにて、役員会で承認のもと進め、議案について、支部会員の皆様より同封のハガキによりご回答いただき、議決基準については同規約第9条第2項に「出席者の過半数で決し、可否同数の場合議長が決する。」に準じ、必着したハガキの数も参加者とし可否を決定しました。

議案の補足説明として令和3年度総会まで現体制の継続と、今年度の事業は今後の見通しがつかない為、計画及び予算の執行状況については次年度総会で報告するものとしました。

令和2年度第1回置賜地区支部役員会を10月16日(金)18:30～えくぼプラザにて開催し、今後の支部の体制等について話し合いを行いました。今後について、役員会や研修会をZOOMで開催できるように、アドレスの登録や環境設定が今後の課題となりました。

(置賜地区支部 村上)

山形地区 支部報告

山形県内の新型コロナ感染拡大が落ち着きを見せていた秋、役員内では集合型オンデマンド研修会を企画したところでしたが、その後の急激な感染拡大を受けて、見直しを迫られました。ケアマネジャーを個別にみると、まだまだインターネット会議システムへの抵抗感や不安感があるようです。そこで、オンライン・オンデマンド型研修会に参加できるノウハウを身に付けようという目標で、インターネット会議システムへのチャレンジ研修会を小規模ながら無料で企画中です。年度末に近い時期の開催になる予定です。

ニューノーマル(withコロナ、afterコロナの新しい生活様式)なケアマネジメントの実施には、インターネット、ICTなどの活用は欠かせなくなっていくはずですので、地道にスキルを身につけていきたいと思えます。

パソコン操作、インターネット活用にお強い方！地区支部運営に力を貸していただけませんか？連絡先は県協会事務局までお願いします。

(山形地区支部 佐藤)

村山地区 支部報告

新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、今年度の村山地区支部の事業については、次のとおりお知らせいたします。

5月24日に予定しておりました東根市タントクルセンターでの平成2年度総会は、開催を中止し書面決議に変更しました。令和元年度事業報告・決算及び令和2年度事業計画及び予算(案)については、84名中(未回答:24名)60名の賛成により承認されました。また、同日実施を予定していた研修会も中止としました。北村山公立病院國本健太郎医師を講師にお迎えし「医療と介護の連携」をテーマとして、北村山医師会様にて取り組んでおられる、入退院時における本人情報や意志確認を有効に行うためのシート活用方法などについて、ご講演をいただけることとなりましたが中止となり非常に残念です。

今後の支部事業については11月25日に臨時理事会を開催して再検討しました。

第1回研修会は、寒河江市西村山郡医師会様主催の「(介護保険)主治医研修会」への参画とし、また、例年開催の会員相互交流会「ケアマネンボの会・研修会」は実施を見合わせることにしました。さらに、第2回理事会を2月24日に開催、令和2年度事業報告・決算及び令和3年度事業計画・予算(案)、同総会及び第1回研修会、役員選出について協議することとしました。なお、今回の理事会にて、監事1名の辞退に伴い、副支部長1名を監事に、理事1名を副支部長に変更し、理事1名補充については、次回理事会にて審議予定です。

以上のように、支部事業内容を大幅に変更することとなり、支部会員をはじめ関係各所の皆様には、お手数とご迷惑をおかけすることとなりますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

コロナ禍の中、第一線で頑張っている協会会員の皆様を感染から守り、感染拡大を予防するためにも、生活様式に沿ったWEB会議やオンライン研修へ移行できるよう検討してまいります。

この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が戻りますように。

(村山地区支部 星川)

庄内地区 支部報告

今年度は、年度初めから新型コロナウイルス感染症拡大防止を念頭に、地区支部の運営にあたらなければならない状況でした。国の緊急事態宣言を受け、今後どのようにしていくのか不安なまま、今年度の研修自体の見直しをしなければなりません。いつものような集合しての役員会の開催もままならず、不慣れなりモートでの役員会を行いながら、ようやく11月27日にハイブリッド型の研修会を開催する事ができました。こんな時だからこそ、会員の皆様の必要としている研修会を行いたい、その一心でした。

この研修会は、講師に「株式会社日本総合研究所創発戦略センター シニアマネジャーの齊木大氏」をお迎えし、テーマを「～ケアマネ力up!～合意形成(コンセンサス)の進め方」と題して、ご講演をいただきました。いつもの研修会であれば、講師の先生を会場にお招きしご講義を頂いておりますが、今回は新型コロナウイルス感染症に配慮し、ハイブリッド型研修会としました。三川町のなの花ホールを会場に20名の制限を設け、zoomを利用し、東京にいる講師と会場とオンラインでの参加者をつないで行いました。企画している役員も初めての試みという事もあり、緊張していましたが、参加者の皆様のご協力もあり、無事研修会を終える事ができました。

今後、こういったオンラインでの研修会の開催や、業務の中ではICTなどの活用をする時代になったのだと思います。苦手意識を持たず、この時代の流れに上手くのらなければならないと考えています。

(庄内地区支部 阿部)

最上地区 支部報告

最上地区支部では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、総会を书面決議とさせていただきました。令和元年度の支部事業報告並びに会計報告、令和2年度の支部事業計画並びの収支予算を书面決議で可決しました。例年総会后に予定しております親睦会なども開催を見合わせております。

また当支部では令和2年12月14日Zoomを利用した支部研修会を実施しました。テーマを『事例を用いて在宅医療を考えよう』と銘打って、戸沢村地域包括支援センター主任介護支援専門員安食仁美氏を講師に招きご講演をいただきました。

メイン会場を『ゆめりあ』を会場に金山・新庄市内の事業所5か所をつないでハイブリッド式オンライン研修を実施しております。Zoomを利用しての初めての支部研修となりましたので、関心が高くコロナ禍のなかで40名を超える参加がありました。

開催に際し、支部役員は連夜Zoomの利用を練習し、本番に備えました。令和3年2月にさらに会場を増やして支部研修を予定しております。試行錯誤で行っている状況下ではありますが、支部一同頑張っております。

(最上地区支部 高橋)



編集後記

昨年は「コロナウイルス」という目に見えない敵との戦いから始まり、新しい生活様式を強いられた年となりました。ケアマネの皆さんも業務上でのやり取りが大きく変わったことと思います。目に見えない敵との戦いの中でも、「目に見えない大切なもの」に気付くことの出来た一年ではなかったでしょうか。

今年は「丑年」。牛のようにドッシリと構え、ゆっくり確実に歩みを進めることの出来る一年にしたいと思います。(佐藤・郁)

一般社団法人 山形県介護支援専門員協会誌

ケアマネ通信 やまがた No.33

発行日/令和3年1月

発行人/佐藤 裕邦

発行所/一般社団法人 山形県介護支援専門員協会

〒990-0021 山形市小白川町2-3-31

山形県総合社会福祉センター内

TEL 023-633-1098 FAX 023-615-6521

E-mail : yacm@pony.ocn.ne.jp

印刷・製本/田宮印刷株式会社

〒990-2251 山形市立谷川三丁目 1410-1

TEL 023-686-6111 FAX 023-686-6114